

# しいたびゅう

いいだ市民劇場会報vol.113

明日の幸福



2008年3月11日(火)

夜6時30分開演

飯田文化会館

1幕60分<休憩15分>2幕30分

<上演時間 1時間50分>

劇団朋友

# 明日の幸福

作 ◆中野 實  
演 出 ◆石井 ふく子  
美 術 ◆中嶋 正留  
照 明 ◆室伏 生大  
効 果 ◆森本 義  
演 出 補 ◆盛田 光紀  
舞台監督 ◆西方 亨  
進藤 忠  
制 作 ◆夏川 正一  
制作統括 ◆横井 徹  
制作協力 ◆オフィス・アイ  
製 作 ◆劇団朋友



ある経済団体の理事長をつとめる松崎家の当主・寿一郎には、何でもいから早く大臣になりたいという権勢欲と家宝の埴輪に執着する物欲があった。ドラマはこの二つの欲をめぐる三世同居の大家族、松崎家の人々を描く人間喜劇である。家宝とされている国宝級の埴輪の馬に、祖母、妻女、新婚の嫁三代につながる過失の秘話が隠されている。女性はいかに新しく生きようとしても、いったん家庭に入ると、結局旧い因習にとらわれ自分を縛る事になる。因習を家法の埴輪で象徴し、それから抜け出ようとする女性自身の覚悟の行動を描くことによって、作者は「明日の幸福」を暗示する。



スピーディーな筋立ての巧みさと機関銃のように打ち出される台詞の数々、多くのトリックを用い巧妙な手法で観客の目と耳を捉えてはなさない。

1954年度芸術祭賞受賞、第7回毎日演劇賞脚本賞受賞。

昭和期新派の代表的演目の一つであり作者の最高傑作である。



谷川 齊一郎  
(某政党员)  
小島 敏彦



間部(美術商)  
小山内 一雄



滝 政江  
益海 愛子



板尾(美術商)  
石川 恵彩



岡(元記者)  
小宮山 徹



宮内  
屋敷 健一



京極(新聞記者)  
渡辺 弘



人見(カメラマン)  
蒲田 雅之



松崎 淑子  
渡辺 美佐子

当主

夫婦



松崎 寿一郎  
(経済同友会理事長)  
児玉 泰次



松崎 恵子  
長山 藍子

夫婦



松崎 寿敏  
(家庭裁判所所長)  
竹脇 無我

長男

友人

親子



松崎 富美子  
釈種 サヤカ

新婚  
夫婦



松崎 寿雄  
(サラリーマン)  
相馬 聡廣

長男



リキ(元女中)  
山口 夏穂

友人



井上(運転手)  
松下 惇



たね(女中)  
鬼澤 みどり



菊(女中)  
水野 千夏

松崎家

**携帯電話は  
電源を切りましょう  
会場内での  
飲食は禁止です**

上演中のマナー違反行為は、会場に居合わせている他の**会員全員**に対して迷惑をかけることになります。涙を誘うクライマックスシーンで、携帯電話の着信音を鳴り響かせてしまったら、迫真の演技も折角の熱演も、すべて台無し。会場に居合わせた650名の人々に、重大な迷惑をかけたことになります。



おしゃべり・飲食も、「禁止、禁止」と会報で書き、さらにアナウンスなどをお願いしているにも関わらず、なかなかなくなりません。自宅のリビングでテレビを観ているわけではありません。マナーを守って皆が快適に鑑賞できるよう、お互い気をつけましょう。お菓子や飴を持ち込んでの、あげたりもらったりもおやめください。



**「オスカー」感想文**

★女性 40 5

芝居はすばらしいと思わせてくれる作品でした。

テンポもよく、軽やかでストーリーもおかしくて、楽しい時間を過ごすことができました。

★女性 60 5

思い込み、勘違い、カバンの取り替えと、大変面白かったです。

村井国夫さんの演技の素晴らしさに感動、楽しませて頂きました。

前回も今までと違った感じで、見ごたえがあり、とても良かったです。

ありがとうございました。

★女性 50 5

舞台のセットがとても色がきれいでお洒落な粋な感じで素敵でした。何回も客席に来て下さりとてもドキドキ、ワクワクしました。動作がとても洗練されていて、特にベットの上でマッサージのシーンは遠目には一瞬体が浮いて見えた様で、すごい体力を感じました。

クリスチャンの声の響きが良かったです。

★女性 40 5

とつてもたのしかった。

村井さんと大沢さんのかけ合いが非常によかったです。

間がよかったです。

マッサージの時のアドリブがよかったです。

★男性 40 5

楽しかったです。たわいない展開でも、生身の人間が目の前で演じてくれるので、ハラハラしたりドキドキしたり、笑えたりするのでしょうか。冬場の寒い時期は、あまり重い内容だとしんどいので、こういう、何も考えずに笑っていただける劇は良いと思いました。

★の1行目は「性別、年代、評価(5=大変よかったです、4=よかったです)」を表しています。

## 「オスカー」運営担当の報告

いいだ市民劇場第112回例会、劇団NLT公演『オスカー』、いかがでしたでしょうか？

村井国夫さん、大沢健さんらの熱演に、会場中に笑いが溢れたひとときでした。大金入りのカバンと、宝石の入ったカバンと、ブラジャーが入ったカバンが、あっちへいったりこっちへいったり…。勘違いとすれ違いの連続に、どうなってゆくかが楽しみでした。舞台セットがお洒落な上に、持ち込みの照明機材が作る光の模様が鮮やかで、飯田文化会館が、東京の最先端の劇場に感じられるほど(大きさですが)、美しかったのも印象的でした。

会員数はといいますと、前前回と同じように、退会が多く、しかもサークル毎退会(解散)が3つ、3名以上だったサークルが減って3人以下に3つになってしまい、マイナス6サークル。退会数も25名もあり、スタートから重い空気に包まれました。担当サークルの1・2回会議は総会前の開催となり、例会や会員プラスへの話し合いよりも、総会の方針を話し合うような機会としたことで、会員拡大への取組みは3回目ようやく始まった感じになってしまい、出遅れた格好となってしまう、最終的にも前例会クリアはなりませんでした。ただラスト2週間で奮起して、5サークルが6名のプラスを果たし、頼もしさも実



感しました。このエネルギーが全サークル(33)に拡がっていただくと惜しまれるところです。

係の分担で大変だったのは「搬入」。それほど大がかりな舞台ではないと予想していましたが、劇団からの搬入手伝い要請人数はいつもより5名も多く、15名。平日の昼間は人手がなかなか集まらなくて、15名に満たない場合には、ここをアルバイトで埋めるしかなく、一人2500円としても5名頼めば12500円かかってしまう…などの問題が…。これを運営担当会議で話し合ったところ、積極的に搬入への参加を表明してくださる方が相次ぎ、アッというまに15名に達し、アルバイトを入れずに済ますことができました。会員の底力のすごいところです。客席後部に足場パイプを組み立て照明機材を増設させるなど、普段と違った手間もかかりましたが、その分舞台効果は美しく、感激でした。

劇団の皆さんへ煮物・漬け物などを届ける「差し入れ」も多くあり、皆さん「美味しい」とおっしゃって頂きました。駐車場は、人形劇場で合唱の練習があり、劇場横の駐車場が使えず皆さんにご不便をおかけしました。受付・窓口・販売などとくに問題もトラブルもなく、無事に幕を降ろすことができました。

担当の皆さん、お疲れさまでした。



### 『オスカー』新入会数

すみれ	1	あじさい	1
えんどうまめ	2	きのした	2
ポーコ	1	オスカー	1
あー1	1		

※個人情報保護の観点から、会員個人名の掲載は控えた方がよいとの判断から、サークル名と人数のみとさせていただきます。

## 企画要望アンケート 集計結果

昨年9月の例会入場の際にお渡しした「2009年度例会作品検討のための作品資料集」と、10月の初旬に行なった「企画説明会」を元に、各サークルで話し合っていたいただき、昨年12月15日のメ切で回収をしました、標題のアンケート。ご提出頂いた46サークル分(全体の約3分の1)の集計をしましたので、発表いたします。

得票数 作品名

22	嫁も姑も皆幽霊
20	鳴神
13	静かな落日
13	あゝ東京行進曲
13	賭けること
11	出番を待ちながら
11	桜散る 散るもつもるも 三春乃一座
9	ルームサービス
9	兄おとうと
9	妻と社長と九ちゃん
8	足の裏の神様
8	アルジャーノンに花束を
7	十二人の怒れる男たち
7	二人の老女の伝説
6	王女メディア
6	エキスポ
5	初雷
4	臨時病室
4	少年H

【解説】 アンケート用紙に書き、説明会でも話しましたように、これらの結果はあくまで参考であり、得票数が多いからといって、即例会になるわけではありませんが、今後の企画づくりに最大限反映させてゆく予定です。具体的には、①得票数の多い作品が東京などで上演される際には、極力下見にゆく。②結果が良ければ、長

野県の会議などで大いに説明・推薦し、例会決定の一段手前「ストック作品」に格上げする。③劇団から物理的条件(巡演可能時期、上演料や人数など)を提示してもらい、長野県内の団体と話し合いながら、条件がクリアできたら、例会として確定してゆく・といった流れです。

【例会決定までの内情】 どんなに得票数があっても、観た結果が悪ければ例会には難しいです。県内団体の役員・事務局長らの評価が重視されます。逆に、得票数は少なくとも、観た結果が良ければ有力候補となります。

年間のラインナップを考え、こちら(長野県演鑑連)側の思いどおりに決められれば良いのですが、劇団の都合で「その時期は旅公演できない」や「長野県だけでは採算が合わないので公演できない」など、様々な理由で、例会として実現できない場合がでてきます。

いいだは年間4本ですが、長野県内の団体は、年6本(上田・長野・まつもと)やるところ、年5本(伊那)やるところとバラつきがあるため、6本のところでは観られるが、飯田では観られないという作品があります。また財政的に余裕があれば少しぐらい高くても呼べますが、現在の飯田のように、財政的にギリギリでやっている場合、他の団体はやっても、飯田はできないので他の作品をやる・という場合もあります(来年度の例で、日程の問題も含め『ドライビング・ミス・デージー』がそれ)。

さまざまな条件により、例会実現が困難な作品もあるわけですが、少なくとも物理的な条件は、飯田の側が頑張れば、困難を克服できる場合が多いです。年4本を年5本にしたり、少しぐらい高い上演料でも呼べたり・とするためにも、なにより必要なことは、「より大勢の仲間を集めること」です。会員数が700名800名あれば、年5本は可能です。上演料が200万を超える作品も呼べます。皆で頑張りましょう!